

北淀高校での親学習

平成 30 年 10 月 4 日 (木)

北淀高校で、3年生の総合的な学習の時間の「性教育講座」として親学習が実施されました。大阪府の家庭教育支援スーパーバイザーである伴野多鶴子さんが講師となり、卵のワークショップを通して、「親となる心構え」や「命をどのように扱っていくか」について考えていきました。この取組みは、大阪府の親学習研修を受講した養護教諭の先生が発案企画し、実施にいたりました。

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>視聴覚教室を会場にして、3年生7クラスを、5時限目(1~4組)と6時限目(5~7組)の、2クールに分けて親学習(性教育講座)を実施しました。教頭先生が、講師の伴野さんを紹介しスタートしました。</p> | <p>伴野さんより、親学習のルール「時間」「参加」「尊重」「守秘」を、また、英語で「Listen」「Open」「Voice」「Enjoy」と、その頭文字「LOVE」を、改めて大切にしてほしいとのお話がありました。</p> | <p>「赤ちゃん」って、どんなイメージか考えます。高校生から、「小さい」「柔らかい」「泣く」などの言葉がある中、先生から高校生に沐浴人形が手渡され、改めて、どんな印象を受けたか考え直します。</p> |
|  |  |  |
| <p>卵を「赤ちゃん」と見立てペイントします。そして、自分の赤ちゃんとして名前を付け、どんな子どもに育ててほしいか考えます。名前にまつわるエピソードの紹介があり、生徒たちは聞き入っていました。</p> | <p>卵(赤ちゃん)を大切な命として、「こんな子どもに育ててほしい」と願いを込めます。今回、ゆで卵を利用しワークを行いました。また、「赤ちゃんベッド」を準備し、けが(破損)を予防しました。</p> | <p>『子は親の鏡』という詩を読みあげ結びとしました。ナレーターのような高校生の読み上げが、大変印象的でした。伴野さんより「この詩をまた、どこかで思い出してくださいね!」とのメッセージがありました。</p> |

生徒の感想

- いつか自分がママになったら、イライラすることも、おこったりすることもいっぱいあると思うけど、それ以上にほめてあげたいと思うし、一緒に成長できたらいいなと思うことができました。
- むずかしい。今日の授業が完全に理解できないから、まだまだ自分は子どもやと思った。この授業がわかるようになって、やっと大人になれる気がした。
- 自分も18歳になり結婚できる年齢で子どももほしいです。子は親を見て育つと思うので、まず親になった自分がしっかりすることが大事だと。
- お母さんとパパは、どうやって育ててくれたんか、ちょっとわかって泣きそうになった。幸せ者やなって思った!